

## 第8回信濃川やすらぎ堤利用調整協議会 議事要旨

■日時 平成30年4月10日(火) 14時～16時

■場所 新潟市役所 本館6階 第4委員会室

■出席者 (敬称略)

・委員(出席) 10名

中村 美香(特定非営利活動法人まちづくり学校 理事)

岩佐 明彦(法政大学デザイン工学部 教授)

夏井 陽三(新潟日報社 執行役員)

高松 智子(ユニバーサルカラープランナー協会 会長)

高橋 邦夫(特定非営利活動法人地域インフラ研究会 理事長)

なぐも友美(きずなクリエイション にいがた観光カリスマ)

井上 達也(新潟商工会議所 事業部長)

菊地 弘隆(新潟中央区自治協議会)

石塚 里栄子(新潟市中央区長)

目黒 嗣樹(信濃川下流河川事務所 所長)

■議事概要 (●委員、○(株)スノーピーク、◆事務局)

<1 委員の変更について>

委員及び事務局の自己紹介

<2 ミズベリング信濃川やすらぎ堤2018について>

※昨年度、出店者アンケート結果について、事務局より説明

今年度、実施計画について、(株)スノーピークより説明

●岩佐

少数ではあるが、アンケートに回答されていない出店者がいる。そこからはなにか意見があったか。

◆事務局

個別に話を伺ったがこれと言って、大きな意見はないとの事であった。

●井上

出店者アンケートから、風に対する心配があがっているが、テントの性能向上や現場での対応を強化するなど、どのように応えていくのか

○久保

風被害は、2回ほどあり、台風のときは、客席のテント、椅子、テーブルは撤去したので、被害がなかったが、出店ブースは、撤去の場合、業者の方でトラックでの搬入搬出となり、物理的に動かさずに撤去出来なかったのが、風対策でロープや重りで対応していたが、被害があった。

今年は、コンテナを導入したいという意向もある。

年に一回か二回は、そのようなシチュエーションがあると思うので、そういったときに動ける体制で出店していただくことで対応していきたいと考えている。

●井上

出店者の対応になるのか。

○久保

出店している店舗の管理責任は、出店者をお願いしようと考えている。

●渡辺

風速7メートルは、そんなに強風ではないのではないかと感じる。

○久保

風速7メートルは、オートキャンプの経験上は強い方だと思う。昨年の台風のときは、テント椅子テーブル撤去したので、被害はなかった。出店ブースについては、簡易テントはトラックで搬入搬出をしたほか、ロープ張ったり、重しを付ける、飛びそうなものを撤去するなどの対応をとった。

出店者には、緊急時に動けることを前提で出店してもらえよう依頼をしていく。

●高橋

アンケート結果をどのように反映させていくのか？

○久保

まず管理者側の課題として、出店者からの不満や安全面があったので、今年度の改善につなげていく。協議会からは取組みの発信について課題をいただいたので、「新潟らしさ」、出店者との連携を行い対応していきたい。出店者のコントロールについても昨年はICを利用したマージンを取っていたが、今年度は席数に応じて固定の費用を徴収する形に改める等の形で反映させていきたい。

●高橋

安全管理は完全に出店者の責務となるのか？スノーピークの関わり方は？

○久保

タープを貸与し、取扱いや設置・撤去の方法等のレクチャーを出店者に行う。実際の運用は各出店者が責任を持つことになるが、スノーピークとしては撤収等の協力体制を構築していく。

●岩佐

ゴミの処理等はどのように行っているのか？合算して処理しているのか？

○捧

去年はゴミ袋に番号を振って、出店者のゴミの量を確認していた。

●岩佐

普段の清掃活動等はスノーピークにまかせっきりになるのか？

○捧

週に一度、出店者で集まって一斉ゴミ拾いを行っていたので、清掃等の体制は引き続き検討していきたい。

●岩佐

出店者には単なる店子という意識でなく、ミズベリングのプレイヤーであるという意識を持ってほしいと思う。

●中村

今の岩佐委員の意見は非常に重要なことであると思う。

○久保

出店者にはそうした意識を持ってもらえよう引き続き、取り組んでいきたい。

●なぐも

アンケート結果では不満の声も見られたよう。声の中には「水辺を盛り上げたい」という気持ちで出店してくれている方もいらっしゃるようだが、やはり出店するメリットがなければ出店者にとってはストレスになる部分が出てくると思うので検討してほしい。あとは出店者だけでなく地域の声があったかもあると良い。

●菊池

昼やっている店舗が少ない印象であった。また、特色のある店舗が少なくなっている気がした。統一感が出ているとも言えるのかもしれないが…。例年より臭いが少なくなっているのは良い課と思った。また、道がにぎわっている一方で、近隣の住民はいつもより通りづらくなっているように感じ

た。あとは若い人はいけるかもしれないが、一人での利用が難しく感じた。

◆事務局

出店については、条件次第という声が多々見られた。

●井上

アンケートも母数が少ないので、割合というものにあまりとらわれすぎない方が良い。

○久保

出店者は盛り上げたいという気持ちで参加している方が非常に多かった。アンケート結果はそれを受けきれなかった我々に対しての不満であると受け止めている。また、今の時点でも今年度の出店についての問い合わせをいただいているところもある。

●なぐも

店舗だけではできない、屋外だからこそできること、メリットを出店者に与えてほしい。あわせて、出店者からの要望も吸い上げていってもらえると、より良い取組みになると思う。

●井上

やすらぎ堤を利用するためのルール、心得のようなものが昨年の課題であったと認識している。そういったものがなにか芽生えたり、生まれるような気運は感じられたか？

○久保

我々のマネジメントが至らないところがあり、そこまでは届いていないと感じている。「やすらぎ堤スタイル」については昨年度からの大きな課題と認識している。

●中村

週一度のゴミ拾いというのも、そういったスタイルの一環になると思う。がんばって作り上げてほしい。

●高橋

一点目は住箱の活かし方をどのように考えているか伺いたい。

二点目はこのエリア全体の盛り上げ方についてで、飲食の顧客だけでなく、市民全員が自由に楽しめる雰囲気、顧客を囲い込みすぎない手法など、について伺いたい。

○久保

まず、住箱については昨年度の実績から、丸ごと貸し切るという使い方はハードルが高いということがわかった。今年度はフリーに使える形で、席料は取らない方針。イベントでの屋内利用を想定している。住箱のコンセプトが茶室であるので、アイコン的にイベント等に連動して利用していきたい。

2点目については、確かに「買わないと利用できない」という声はあったので、休憩スペースのようなものの設置は検討していきたい。ただ、コンビニで買ったものを持ち込んで場所を占有されるという事態が発生してくると、それは出店者に対してもよろしくないので対策を考えたい。

●井上

昨年度までの取組みではそれは禁止されていたのか？

○久保

店舗に固定で席がほしいという要望もあったが、これまではフリーに席を利用してもらっている。シートの貸し出しなどの案内方法で対応可能かと考える。

●高松

利用されるシートについては色彩等、景観に配慮していただきたい。さきほど茶室というコンセプトとおっしゃっていたので、そこでは単なる飲食の席ではなく、サークルや大学など、活動に積極的に利用してもらえるところに利用を促進してほしい。

●高橋

コンセプトに対して達成状況が評価できない状況にあるので、そのあたりはもっと掘り下げていっ

てほしい。

ここでコンセプトに上がっている「企業・団体・人をつなぐ」についてはできていない状況だと思う。回遊性の向上かなにかで実現可能か？

また、各出店者の店舗の装飾などの設えがコンセプトに沿っているかどうかというのも重要だと思うので、出店者に伝わるような工夫を行ってほしい。

安全性については責任の所在を明確にしてほしい。風速を基準にするのなら風速計の設置等も必要だと思う。本当にあるべきオペレーションがどのようなものか検討してほしい。

○久保

賑わい創出についてはどのように評価すべきなのか、非常に難しいところであると認識しているので、そのあたりは調査・検討していきたい。

また、回遊性についてもミズベリングの取組だけで完結するものではないと認識している。どこにどのように人を流すのかが問題だと思うので、ご意見を頂戴したい。

出店者の各店舗がコンセプトに沿っているかどうかについては、出店者マニュアル等を通じて意識の共有を図っていききたいと思う。

安全性について管理責任はスノーピークにあり、モノは出店者の責任で管理するという整理をしている。どの程度まで安全を担保する必要があるかはこれから検討を進めていきたい。

●中村

一口に賑わい創出といっても非常に難しいものであると思う。回遊性という考え方について、市としてどのように考えているか伺いたい。

◆事務局

ミズベリング一つとっても、一つのきっかけではあるが、いかに日常化し、認知を得ていくかが重要だと思う。何をもちょう評価するかは、一緒に勉強させていただきたいと考えている。

●中村

昨年とはまちの状況も変わっていると思うので、昨年と同じ取組みだから良いとはならない。

●岩佐

「スタイル」の一つの考え方として、多くの人が思い思いに過ごせることが重要であると思う。そのために多様な人々をいかに呼び込むかが重要。それをどう周辺につなげて回遊性を作り出していくかはアクセシビリティの問題でもあるので、ウォーターシャトルやレンタサイクルといった交通手段も関係してくると思う。

あとは今年は水と土の芸術祭といったまちなかで開催されるイベントもあるので、そうしたところとの連携もにらんでほしい。

市民参加というところでは、主体性をもった人が参加できるようなサポーター制度があっても良いのではないだろうか。この場で完結せずに、取組みをどんどん広めていくことを意識してほしい。企業的にはCSRといった側面もあるかもしれないが、自社のモノにこだわらず広い視点で取り組んでほしい。

○久保

サポーター制度については検討したい。弊社としてはCSRといった意識はそこまで強くないので、この取組み自体をより良いものとしていきたいと考えている。

●中村

歴史的にも新潟は町民が強いところでもあるので、勝手に応援してくれるようなサポーターは意外と多いかもしれない。どのようにつながればいいのかは課題であるが…

●井上

そろそろ観光客の対応を意識しても良いのかもしれない。MICE に対してはぶらり酒で対応を検討しているようだし、いずれは観光客、外国人観光客のインバウンドを意識しても良い。

●目黒

今年の事業期間はどのように考えているか？

○久保

期間は7月～10月（4か月）で想定している。事業者が間に合うようであれば、スポット的にプレ水辺のようなものが開催できると良いと考えている。時間等については土日は絶対に開けてもらうものとする。平日営業は人件費の確保の問題もあるので、強制はなかなかできない。個別の店舗で任意に営業してもらうこととする。

●目黒

左岸はどのように実施する予定か？

○久保

昨年度はカフェとヨガ等の実施をしたが、売り上げ的にも厳しかった。アクティビティなどのコンテンツで補っていきたいと考えている。

●目黒

信濃川下流河川事務所で高水敷や坂路整備を行っているので、現地をきっちりと確認してほしい。関連するイベントについては萬代橋誕生祭や新潟まつりもあるので、ターゲットを絞って取り込むと良いと思う。

あとは単発でイベント的に使いたい人への対応も考えてほしい。契約した人しか使えないというのはあまり良くないと思う。

○久保

契約していない人でも使えるスペースは検討したい。キッチンカーゾーン等は1日単位の貸し出しも検討している。

●中村

萬代橋側は昨年度も出店していたので、ぜひとも上手く活用してほしい。

●夏井

新潟日報でもコラボさせていただいたが、手応えはどうだったか？

○久保

新しいチャンネルが開けたので非常に良かった。これまでに使ったことがない人も弊社のラッチオープンを利用してもらえて好評であった。

●岩佐

評価するにあたって、ある程度のベンチマークを設定しておく必要がある。

●高橋

取組みすべてを評価するのではなく、「これは」といった重点項目を評価していく方向が良いと思う。

●中村

様々な意見が出たが、今年度もスノーピークとの使用契約を更新することに異議はないか。

（一同、賛成）

◆事務局

それでは今年度も、スノーピークと契約を更新させていただく。スノーピークについても初年度は先行投資といった側面もあったと思うので、これからよりよい事業に改善を図っていききたい。

今後のスケジュールについては5月1日に正式契約を予定しており、体制を整えて7月頃にスタートを切ることになると思われる。

契約締結は後日、報告を行い、事業がスタートした際には1ユーザー目線で現地でも確認いただきたいと思う。